

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成30年12月20日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	46768000156
法人名	社会福祉法人 橋友会
事業所名	グループホーム 南の家族
所在地	鹿児島県志布志市志布志町志布志二丁目27番地18号 (電話) 099-472-8486
自己評価作成日	平成30年11月7日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成30年12月8日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は緑に囲まれ公園や海・買い物に便利なショッピングセンターにも近い場所に位置しており、自然の中にも散歩や買い物などには、いつでも出かけられる便利な環境にあります。ケアについては、理念やモットーに掲げてある、その人らしい生活が送れる様に一人ひとりの意向を尊重し、ゆっくりと待つケアを目指して取り組んでおります。健康面については、定期的な訪問診療による診察や訪問看護リハビリステーションから週に1回の訪問を依頼しております。常勤看護師も配置し医療連携が充実して利用者様の健康管理を密に行っております。食事においては新鮮な食材や旬の物を取り入れ、栄養士に献立作成の協力をもらい、安全で美味しい食事の提供を心掛けております。菜園では苗植えから収穫まで利用者様と一緒にいき、収穫できた野菜は食事に使用し季節の彩を添えています。野菜の下拵えや梅干し作りなど利用者様と一緒に出来る事は、して頂きながら手作りにもこだわっています。口腔ケアについては、食前に健口体操を実施し、毎食後は歯磨きをして清潔が保持できるよう支援しております。必要時には訪問歯科診療の依頼も行っております。行事においては、毎月の誕生会はもちろん、季節ごとにドライブやバイキング、外食、カラオケなど思考を凝らし笑顔で楽しく、また地域との関りの中で慣れ親しんだ町や社会の一員として役割を保持し張りのある生活が送れる様に取り組んでおります。平成28年9月より共用型通所介護を開始して、他者との交流も図っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 理念は、住みなれた地域の中での地域交流や心のふれあい、ぬくもりのある家族の実現を目指したものである。ケアのモットーがあり、毎朝、職員全員で唱和している。また、理念を実現するための単年度の目標があり達成するために個々の職員が自己評価し、利用者の意向を尊重し自己のペースに合わせたケアの実現や心地よい場所と時間の提供を目指している。
- 地域の情報収集は、自治会長を通じておこなっているが、地域も高齢化しているため、管理者は、事業所力を発揮し地域が望む社会貢献を検討している。そのため、可能な限り地域の方々にホームに足を運んでいただけるようボランティアの受け入れや地域サポーターなどは日常的に訪問を受け入れ、散歩介助やレクリエーション活動への参加、行事(夏祭り、餅つきなど)に参加をいただき利用者との交流活動に役立っている。
- 職員は、有資格も多く内部研修会への参加や外部のスキルアップ研修会などにも参加して自己研鑽している。事業所は、職員の休憩時間を活用し、ストレスチェックをし、職場環境を整備し働きやすい労働条件、やりがいや職員個々の目指す目標が達成できるよう努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝スタッフ全員で「地域密着の理念」「ケアのモットー」を唱和し、個々に意識をもって実践している。	理念は、事業所内に掲示されパンフレットに掲載されている。職員は、毎年度末ミーティングにて振り返りの機会があり、単年度の目標に向けても取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域や支援サポーターの方々を夏祭りに招待し、多くの参加を頂いた。支援サポーターの方々とも密に連絡を図り交流を深めている。	地域の情報は、自治会長を通じて情報を共有するよう努めており、ホームの行事への参加やボランティアの受け入れなども積極におこない地域交流を目指している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	運営推進会議へ地域の方々に参加して頂いたり、家族会にて研修で学んだ事を発表したり実技も行い、理解を深めている。積極的に実習生も受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の生活状況及び行事への取り組み等を報告している。それに対する意見や要望を伺っている。職員による勉強会や研修報告も開催し、意見や要望は職員会議で話し合い、サービスの向上に努めている。	会議は、ホーム独自で開催されており、認知症の理解など勉強会を開催し、ケアの質の向上に活かしている。今後は、小規模多機能ホームと一緒にサロン活動が出来る様にする等、自分達にできる社会貢献を検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議に市の担当者が参加されて、状況報告し意見も頂いたりしている。実施指導も受けている。</p>	<p>市担当者や地域包括職員との情報の共有を行い、相談や指導、助言などを電話や面談などで受けて、相互の協力関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束廃止に関する指針を掲示する等、職員一人ひとりが身体的・精神的弊害を理解し、拘束廃止に向けた意識をもち、身体拘束をしないケアの実施に努めている。</p>	<p>今年、4月に「身体拘束廃止に関する指針」を整備し、5月には家族会で説明をしている。人感センサー利用者については、身体拘束委員会やカンファレンス、担当者会議などで活用の必要性などを検討した。会議は毎月開催され、研修は定期的の実施されている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体拘束廃止委員会を中心に委員会を開催したり、研修に参加している。又、職員に虐待に関するアンケートを実施したり、勉強会を行い、知識を深めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在、該当者はいないが、成年後見制度については、勉強会などで職員に説明し理解を深めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所のケアに関する考え方や重度化の看取りについての対応方針、医療との連携などの内容を詳細に説明を行っている。介護報酬改定や料金の変更についての説明は家族会や個別で行い、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族や利用者の代表が、家族会・運営推進会議に出席されている。意見や要望を伺い、出された要望や意見は職員会議で話し合いを行い、反映させている。	毎月のホーム便りに当月の支援経過記録を添付し家族に郵送して、生活の実情を知らせしている。また、家族向けアンケートを実施し、結果を分析して利用者や家族の意向に沿うサービスが提供できるよう取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を毎月開催し、意見や提案を審議する場を設けている。また親睦会や個人面談などで個々に意見を聞き、反映させている。	管理者は、個人面談やミーティングなどで職員の意見、提案などを聞き取り全員で話し合いながら、理念に沿ったケアの実現を目指している。職員は、両ユニットを全員でケアし夜勤体制にも配慮がある。また、歓送迎会や、各部署ごとの交流会などがあり親睦を図っている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握し、労働時間の調整等を行っている。個々が向上心を持って労働出来るよう資格取得に向けた支援や研修への参加を促し、働きやすい職場環境作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>なるべく多くの職員が外部研修に参加出来るよう計画し、研修後は報告の場を設け、職員全員が知識が深められるように努めている。毎月の勉強会では、管理者が認知症ケアの勉強会を実施し、職員も個々で勉強会を企画し実施している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の連絡協議会や研修に参加し、互いにサービスの向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心した生活が送れるように、生活の状況・本人の気持ちや要望を事前に面談にて聞き取りを行い、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と信頼関係を築ける様、不安な部分や要望を事前に十分に聞き取りを行い、ケアの取り組みについても話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談を本人・家族と行いながら双方の意見を聞き取り、施設サービス計画書に繋げて信頼関係の構築に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全職員が、利用者様は人生の先輩であるという考え方を共有し、生活文化や季節の料理等を教えて頂きながら共に支え合える関係を構築している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、南の家族便りや支援経過記録の報告等で利用者様の様子や状態を家族に伝えている。行事開催時には家族へ参加をお願いし、本人を支えていく為の協力関係が築ける様努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある行事等に参加出来るよう配慮している。また知人が遊びに来られたり、いつでも訪ねやすい雰囲気を作り、交流の支援に努めている。	日常的な散歩や買い物、墓参り、訪問美容、志布志駅のイベントへの参加、障害者との交流、知人、友人の来訪があり、電話の取次ぎや携帯電話で家族などとの絆が途切れることがないように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のレクリエーションや食事時など利用者様同士会話を楽しんだり、作業が出来るよう職員も一緒に中に入って支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所へ移動されてからも面会に伺ったり、当施設への訪問もあり、付き合いが継続出来ている。家族からの相談も随時対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々接する中で、本人の思いや希望を傾聴し、気持ちを汲み取る事に努め把握している。時に困難な場合は家族の協力を得て、情報収集を行っている。	本人の言動を注意深く見守り、リラックスした時などにタイミングをみて思いを聞き取ったり本人の思いに馳せるよう努めている。個々の性格や疾病、認知面に配慮し思いが引き出せるよう工夫しコミュニケーションを取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	訪問し本人や家族等から生活環境や生活歴を聞き取り、事前面談を行っている。入居前のサービス利用をしている事業所からの情報収集も行い把握に努めている。入所前に来所にて、カンファレンスの開催もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録の記入・確認を積極的に行い、申し送りにて日中・夜間の状態を全職員が把握できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時は本人や家族の意見及び要望を聞き取り、各担当職員と一緒にアセスメントを行っている。全職員で意見交換が出来るようカンファレンスも随時開催している。サービス担当者会議はなるべく家族・担当者が出席して頂けるようお願いしている。	利用者や家族の意向を汲み取り代弁したり、本人の思いや生活の実現に向けた介護計画書を作成している。職員は、自己実現や本人の役割、生きがいにつながるよう目標設定し全員で話し合い取り組んでいる。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別にケース記録を行い、記録の確認・申し送りにて情報を共有している。月末にはケアの実践などをモニタリングする事で介護計画の見直し評価に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急な通院の送迎、往診・訪問看護との連携を図るなど、柔軟な支援に取り組んでいる。不穏時は散歩などの気分転換が図れるよう配慮した対応も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の際、参加者から地域の情報を収集したり情報交換にとても協力関係が築けるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人や家族の希望に沿って柔軟に対応している。訪問診療や訪問看護との連携により健康管理も行っており、必要時には通院介助も対応している。	本人や家族が望むかかりつけ医である。家族や職員が協力し外来受診したり、主治医を始めとする医療関係者やセラピストと連携を図っている。法人の精神科もあり、外来受診を通じて治療に努めたり、薬剤師との連携がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>常勤看護師を配置し、利用者様の健康管理や状態変化に応じた支援に努めている。</p> <p>週に一回訪問看護が訪問する際に相談や情報提供をし連携を図っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時はサマリーを作成し医療機関に情報提供を行っている。職員が洗濯物を取りに行く等、頻回に面会を行い、状態を把握し早期退院が出来るよう主治医に相談し連携を図っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化の指針を定めて、本人・家族に説明し、終末期の看取り等について、事前確認書を記入して頂いている。終末期を施設で迎えたい希望がある時は、安心して納得した看取りを目指しチームで連携を図っている。</p>	<p>重度化対応・終末期ケア対応指針があり、契約時に事前確認書にて意向を確認している。看取りの経験もあり、現在、重度化している利用者も複数名おられるが、段階に応じてホームでできる具体的なケアを話し合いながら納得がいく最期が迎えられよう取り組んでいる。職員は、看取りの勉強会や看取り後の振り返り、グリーフケアを実施している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時に対応が出来るよう、緊急時マニュアルを作成し、応急手当の勉強会を定期的に開催し知識を深め、実践力を身につけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策に関するマニュアルを作成し、定期的に避難訓練を行って、運営推進会議で報告している。両館・併設の夜勤者は一緒に消防のマニュアルを毎日唱和し、安全対応が行える体制を作っている。市の津波訓練にも参加している。	年1回消防署立ち合いの上で、法人と合同での防災訓練に参加したり、ホームとケアハウスぬくもりとの自主訓練、津波を想定した市主催の防災訓練に参加している。水やレトルト食品、防災グッズなどの備蓄がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊厳を尊重し、排泄介助の声掛けなどもさりげなく行い、自尊心を傷つけないように努めている。またプライバシーを損ねない様、職員全員が言葉遣いには気を付けて対応している。	接遇マナーに対する意識が高く、研修にて自己研鑽し丁寧な言葉使いを心がけ不適切な言動がないよう注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で、自己決定が出来るような声掛けや場面を作り、ご本人の希望に沿ったケアを心掛けている。意思表示の困難な方には、声掛けを密に行い、表情などで読み取って支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声掛けや状態観察を十分に行い、その人らしい暮らしが出来るよう、起床・食事時間も本人のペースに合わせて、本人の気持ちや状態を尊重した対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	着替えは本人にお任せしているが、介助の必要な方は、本人に伺いながら自己決定出来るように努めている。行事や外出時には化粧やおしゃれを楽しんで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は出来るだけ季節に応じた旬の物を取り入れて提供している。筍やつわ、梅干し作りなどは職員と一緒に下拵えが出来る様な援助を行っている。下膳やお盆拭き等の手伝いをされている。	栄養士が作成した献立で、食材は業者に注文したり地元スーパーで調味料を購入、家族の差し入れも多く菜園の野菜も活用している。誕生会のリクエストメニューや家族との外食、行事食、手作りのヨーグルトやおやつ作り、能力に応じたお手伝いをいただいている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がカロリー計算したバランスの良い献立を作成してもらい、本人の状態に合わせた献立や量・形態も主治医と連携して提供している。水分摂取はチェック表を作成し確認を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人に合わせた口腔ケアを実施している。夕食後にはポリデント洗浄をし清潔に努めている。義歯の状態も観察し、不具合等ある場合など、訪問歯科診療との連携も図っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中はできるだけトイレで排泄が出来る様に支援している。また、個々の排泄パターンが把握できるように排泄チェック表を作成し、確認を行っている。	排泄のリズムを把握し、なるべくトイレで排泄したり、おむつへの排泄を減らし湿潤などの状態が続くことがないように定時でおむつ交換して清潔保持に努めている。リハビリパンツから布下着に改善した方がおられたり、夜間のみポータブルトイレを使用される方がおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつにて繊維質が多く含まれている食品や乳製品を提供し、便秘解消に努めている。特に便秘症の方には散歩や水分補給の工夫をし、腸の動きが良くなるよう便秘予防に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	その日のバイタルをチェックした後、入浴の声掛けを行い、個々の体調や要望に合わせて、職員の見守りや介助で楽しみながら入浴が出来る様努めている。	西館は一般浴槽、東館には特別浴槽があり、利用者の希望や身体機能などを勘案し、入浴方法を検討していただけるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や状態に合わせて休息をしたり、お昼寝をする方もおられる。19時頃に好きな飲み物を飲みながら、他者との会話を楽しんだり、テレビを見て寛ぐ方もおられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状にて個々の薬の内容や容量の把握をし、服薬時には利用者様の名前・日付・いつ服用かを声に出して職員2名・本人と確認を行っている。症状の変化がある時は主治医などと連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来るだけ個々の生活歴に関連した活動の支援により楽しみや活気が持てるように努めている。月毎でイベントも実施し家族参加やドライブなど楽しみや気分転換が出来る様取り組んでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生日には要望を伺い、本人・家族等と一緒に職員も外食に出かけ交流を深めている。その他にも日常的に散歩や外気浴も実施し、地域の行事やドライブも全員が参加できるように努めている。	日常的に散歩を楽しまれる方や駅でのイベント、ドライブに行くなど、家族や支援サポーター、福祉科学生に外出支援を手伝ってもらい、天候や体調に配慮しながらなるべく外出が楽しめるよう計画的に外出支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭の所持をしている方はいないが、本人や家族の意向で預かり金をして職員と一緒に買い物に行けるよう支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人が要望した際や贈り物・手紙が届いた時には職員が仲介し電話が出来る様支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>日々のレクリエーションにて制作した作品展示や行事ごとの写真を掲載し季節感を取り入れたり、カウンターには水槽を置き、家庭的な雰囲気を感じて頂ける様、居心地の良い空間づくりに取り組んでいる。</p>	<p>玄関から食堂兼リビングが一望できカウンターにはメダカの入った水槽が置かれている。壁には利用者の作品が掲示され、ダーツや平行棒など配置し機能訓練に取り組んでいる。また、マッサージ機やソファでくつろぐなど思い思いに過ごせるよう工夫をしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールのソファや畳敷きスペースに利用者様同士が並んで会話を楽しまれている。居室のソファや玄関ホールのベンチにて一人でゆっくりと過ごす時間や場所がある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>以前自宅で使用していた椅子やソファ・タンス等、使い慣れたものを持ってきて頂き使用している方もおられる。居室に家族の写真やご自分が書かれた塗り絵やカレンダーを飾り居心地の良い空間作りを行っている。</p>	<p>畳部屋は、車いす移動がしやすいようスロープを設置するなど本人の身体機能に合わせ住環境を見直し暮らしやすくするなど工夫がされている。全盲の方もおられるが、歌手であるお孫さんの歌をラジカセで聴いて楽しんでいる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>本人が解るようにホールのテーブルや椅子には名前を貼って対応している。トイレや居室が解るように張り紙や飾り物で工夫し自立した生活支援に努めている。</p>		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない